

# Ⅰ 教育的支援の充実

内容 教育的支援が必要な児童が『安全・安心・安定』した生活を送るための支援の方策



## Ⅰ 取組に係る本校児童の実態について

- 特別支援学級在籍児童が多い。(31名)
- 医療機関や福祉機関との連携がとれていて、診断や支援を受けている児童が比較的多い。
- 登校しぶり・不登校児童が数名いる。(欠席日数30日以上の子は、3名【8月末現在】)
- 書くこと・読むことが苦手なために学習につまずきが見られる児童がいる。
- 相手の話の意図がわからない、集中できる時間が短く話を聞けない、作業が持続しない児童がいる。
- 音、におい、味や食感、触感、まぶしさ等の感覚に過敏さをもち、結果として学校生活に困難さを抱いている児童がいる。不安を抱きやすく、結果として学校生活に困難さを抱いている児童がいる。
- 切り替えが苦手な、集団での生活に支障をきたしている児童がいる。
- 身の周りの片付けが苦手、忘れることが多いなどから、学習に支障をきたしている児童がいる。
- 人とのコミュニケーションに困難さがあり、良好な人間関係を築けない児童がいる。
- 自分で計画を立てること、計画したことを実行することに困難さがあり生活に支障をきたしている児童がいる。

## 2 目的（取組の意義）について

児童自身が、自分のことや周りのことが『わかり』、自分を表現することや自己決定が『でき』、似ている場面でも自己表現や自己決定ができるようになる（汎化）ことを目的としている。

そのために、指導者誰もが同じようにその子を理解すること、支援方法をそろえること、チームでかわること、本人にとって有効と感じる工夫を一緒に探ることが大切になる。

## 3 内容について

- 実態を共有する
  - ・『児童理解のためのツール』の共有
  - ・保護者との教育相談
  - ・外部機関との連携
- 支援方法をそろえる
  - ・個別の支援計画『まっぷる』、個別の指導計画『まっぷるⅡ』の作成
  - ・教育支援部だよりの発行
- チームでかわる
  - ・学習室の開設
  - ・支援員の配置
- 児童とともに工夫をさぐる

## 4 成果・課題・今後の方向性等

《成果》

- 児童理解情報を共有することで、児童理解の促進ができた。
- 今までの個々の実践がUDに関連していたことが確認でき、全体への取り組みへと広がりがみられた。
- 児童から「〇〇が困っている」「〇〇してほしい」等の相談がされるようになった。
  - ・座席は後ろがいい。
  - ・にぎやかすぎるのが苦手だ。
  - ・全部書くのは疲れる。
  - ・先生に手伝ってほしい。

《課題・今後の方向性》

- 今年度開設されたばかりの分掌であり、内容が整理されてなく、手探り状態となっている。
- 合理的配慮をどの程度行うのかの難しさがある。
- 児童の変容からの振り返りを行い、児童のニーズ、職員のニーズを把握し、必要なことと必要のないことを見極める。
- 低刺激、『変化・変則・変更』の回避を促進する。
- さらに環境を整え、全体支援を増やすことで、より少ない個別支援で済むようにする。